

氏名： 宮内 貴久 (MIYAUCHI Takahisa)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 博士(文学) (2003年 筑波大学)
職名： 准教授
専門分野： 民俗学、文化人類学
E-mail： miyauchi.takahisa@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

風水/大工由緒書/家相/街並み保存/建築儀礼

◆主要業績

総数(2)件

- ・「日本番匠記系本の展開－福井県越前市小野谷の事例から－」『歴史と民俗』第24号 神奈川大学日本常民文化研究所 2008年 91-113頁
- ・「路傍に祀られる神々」『JAPAN NOW』2008-2009 独立行政法人国際観光振興機構 67-75頁

◆研究内容 / Research Pursuits

今年度は大工が所蔵する巻物について、①所在調査、②内容の解読を行った。

今年度の調査で、建仁寺流の史料が青森県弘前市、福島県郡山市・南会津郡只見町、福井県、富山県に存在することが確認され、全国的に展開していることが確認された。三輪神道系の巻物も兵庫県、徳島県に存在することが確認された。特に徳島の史料は会津の史料とほぼ同じ内容であり、また17世紀中頃のもので、これまで知られている史料の中でも非常に古いことが確認された。

資料の内容であるが、各儀礼の呪い歌のうち火伏せの呪い歌が全国的に分布し民俗として定着しているが、その民俗が少なくとも18世紀中頃には存在していたことが確認された。

今年度の大きな成果は①真偽はともかくとして、大永5(1525)という中世の紀年銘を持つ『日本番匠記』という大工由緒書・儀礼書が福井県で発見されたこと、②同書は古典的大工由緒書である『日本番匠記』系本の写本であることが明らかになったことである。このことは福島県会津地方からスタートした共同研究が、①中世をも視野に入れる歴史的研究につながったこと、②全国的な展開が可能になったことを意味し、本研究のさらなる発展と研究課題が明らかとなった。

また、今年度の調査研究では、大工自身が積極的に、文字文化を得ようとする事例を取り上げ、版本から、あるいは書写することにより文字によって、新たな知見を得ていることを明らかにした。このことは、譬え、大工という職人であっても、高いリテラシーを持つ者は積極的に古典的木割書・儀礼書を書写することにより、高い知識を文字文化を通じて習得し、さらにその知識を地域に伝達していたのであり、本研究テーマの大きな成果となった。

◆教育内容 / Educational Pursuits

今年度、すべての講義をパワーポイント化することができた。また、新たに画像を加えることにより、より視覚的な講義を行うことに努めた。

演習と生活文化実習では、高度経済成長からの生活文化の変化をモノを通して考えることを試みた。具体的には生活用具の変化を当時の文献史料と聞き書きから再構成することを行った。さらに、実習では東京都中央区月島をフィールドにして、大正末から昭和30年代の生活の様子とその変化の聞き書きを行った。このことにより、普段意識しない生活文化を相対化する視座の構築と資料調査方法の習得を目指した。

◆研究計画

職人巻物研究では、全国的に分布していること、中世も視野に入れることが確認できた。引き続き史料調査を行っていきたい。

風水研究では、明治大学でシンポジウムを行い文化人類学、歴史学、思想史との連携した研究を進めることができ、来年度も継続して共同研究を行っていく。

◆メッセージ

大学はキャンパスで学ぶだけでなく、図書館や美博物館、術館といった学外の施設、さらにはフィールドワークにより広く学ぶところです。

私は機会があるごとに学生を連れて色々なところに出かけています。昨年度は特に月島を歩き、そこに暮らしている人から話を聞きました。お茶大に入って色々なところを訪れて学びましょう。